

宜野湾高校の生徒達へ（43）

2020.9.18

今回は、あさのあつこさんの皆さんへのメッセージを紹介する（沖縄タイムス 8/16:一部引用）。これは中学生を念頭に書かれたものだが、高校生の皆さんが読んで心にも響くものがあると思い、取り上げる。あさのさんは、野球少年達の心情を描いた小説『バッテリー』など少年少女の物語が多く、中学時代は「他人と違う何者かになりたいけど、どうすればいいか分からず悩んだ」という。

そんなあさのさんが、本を読む面白さを次のように書いている。

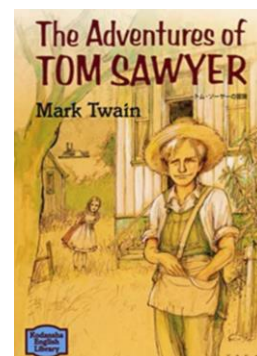
私は小学校では読書をせず、中学生で本に出会って面白さを実感しました。最初に名探偵シャーロック・ホームズのミステリー小説を読んで「物語ってこんなに面白いんだ」と強く思ったんです。（中略）

ホームズに出会って**世界が広がりました**。19世紀のロンドンで、濃い霧の中を動くシルクハットの人影や、馬車が石畳を走るカタカタという音、暖炉の炎の暖かさを体験した気がしました。物語は私をどこかに連れて行ってくれる、と理屈ではなく直感しました。



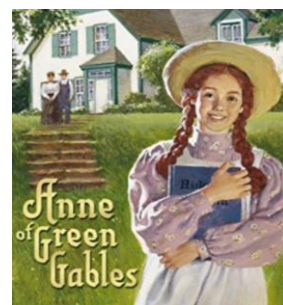
記事で印象的だったのが、「**本は見知らぬ広い世界とつながる扉**」の部分だ。

壁に囲まれてしゃがみ込む自分、みたいな感じだったのが、
実は壁ではなくて扉で、「開くんだ」と。
パターンと開くと、見知らぬ世界、南の島や宇宙、海の底があった。
現実には体験できない、時空を超えた物語の世界が流れ込んできた。
「私はそういう世界につながっているんだ」と実感し、
自分は広い場所にいる、と物語に教えられたんですよ。（中略）



自分では、「壁」と思い込んで「しゃがみ込んでいた自分」。ところが、「壁」を押してみると、それは「扉」であり、そこから「見知らぬ広い世界」につながっていた。いま、私たちは新型コロナウイルスによって思うような生活を送ることが厳しい状況だが、あさのさんのメッセージを読むと「私たちの生活を豊かなものにしていく方法があるのではないか？」と前向きな気持ちになる。

14歳は今だけ。今でないと感じられない何かが絶対にあります。
今を犠牲にしてすぐ素敵な未来はない。
だから、今の自分を認めて大切にしてほしい。
挫折したり、学校に行かずひとりぼっちだったりするかもしれないけれど、
大人の価値観にしばられず、自分を認めてほしい。



「高校時代は『アイデンティティを確立する』ことが重要である」、と皆さんは授業等で聞いたことがあるだろう。「アイデンティティ」を「自分らしさ」ととらえると、自分の自分らしさとは何だろう？とつい考えてしまう。「今の自分を認めて大切にしてほしい」は、GIS(27)で取り上げた「違和感にこだわれ！」と関連し、皆さんの「違和感(ひっかかり)」が「その人らしさ」をつくり、違和感にこだわるのが「自分を認めて大切にすること」に繋がるのではないかと（思う）。

古典はぜひ読んで下さい。「赤毛のアン」でも「トム・ソーヤーの冒険」でも。
大人になって読み返すと全く違う世界が見える。読んでいないと分からないからもったいない。
それが根っこになり、後で自分の考え方を比べる基準になります。

「古典」とは、繰り返し読むたびに新たな発見がある作品だ。私が今でも手に取る古典は何だろう？
すぐには思い出せないが、皆さんの教科書に載っている『山月記』（中島敦）は今でも印象に残っている。
国語の教科書は、古典の宝庫といってもいいだろう。そんな古典を一人で読んだ時には気づけなかった視点で読みを深めることができるのが、学校の授業だ。そう考えると、授業中ボンヤリしているのは「もったいない」。

沖縄県立宜野湾高等学校長 津留一郎